

エピソード68

保護者への連絡を忘れる ところでした！

このエピソードでは、初任者で22歳女性の先生の経験を紹介します。



ジュリさん
教師を目指して勉強中



この先生は、2年生の担任です。
学級には丁寧なかわりが必要な子が沢山いるそうです。

1年生の先生からの引継ぎで、配慮が必要な子たちを引継ぎました。でも、その子たち以外にも見守りが必要な子がたくさんいるんです。

授業中に隣の子ともめて泣いている子、音楽の時間でちょっと待たせたらお漏らしする子、そしてやはり引き継いだ子が隣の子を突き倒してけがをさせました…。



それは、大変ですね。

下校時間が迫っていて保護者に連絡もできません。それがいっぺんにあって、もうどうしたらよいかという感じです。

次の会議に出かけなくてはいけなかったのですが、出かけようとしたら養護教諭の先生から「けがの事、連絡しないとだめだよ。家には私が電話をして、迎えに来たらお話しておくから。先生は加害と被害の様子を子どもからちゃんと聞いてから子どもを帰してね。」と言われました。

その時、少しパニック状態になっていた私は、会議から戻って養護教諭の所に行くと「連絡しておいたから、後は先生が詳しい状況を話してね。」と言われ、ほっとして涙がこぼれました。それぞれの保護者にも伝えることができたが、とても大きなミスをするところでした。



養護教諭の先生に声をかけてもらい、助けてもらえてよかったですね。

被害にあった子のお母さんから「隣の子から毎日、いじわるされているようです。」ということもお聞きし、もっと落ち着いて学級全体を見ていかななくてはと思いました。特に保護者の方にちゃんと連絡もせずに会議に行こうとしたことは絶対ダメなことだと痛感しました。



時間に追われ、しなければいけないことが沢山あると、どうしたらよいかかわからなくなりますね。

先輩教諭から「後ろの席で泣いている子がいたり、少し教室が落ち着かないね。他の先輩の先生の授業や学級経営の様子を見せてもらうのも勉強になるよ。」と仰っていただいたので、早速管理職にお願いしてその時間を作り、学びたいと思いました。



養護教諭の先生は、とてもよく学級のことを見てくれていたんですね。

ジュリさんの気づき



- ていねいなかわりを必要とする子どもたちが沢山いる学級を初任の先生が担任することがあるんだなとわかりました。
- 養護教諭の先生は、学校全体の子どもたち、学級、先生たちのことを見ているんですね。
- けがをしたときは、保護者に連絡すること、忘れないようにします。

お・し・ま・い

若い先生の保護者支援



ジュリさん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーの経験をもとにした架空のエピソードです。>

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)